

水の大切さ

沖縄県 具志川中学校 三年 徳田 莉子

みなさんは自分が普段あたりまえのように使っている水の大切さについて考えたことがありますか。

私は父が水道関係の仕事をしているため、水について考えたことはありますが、深くはわからなかったので今回の機会を利用し、調べてみることにしました。

近年、テレビやスマホで水についてのことを目にするのが前にくらべて増えたように感じます。それだけ今、水不足は世界で真剣に考えていくことが必要な問題であると思います。

水は生命の源であり、私たちが生きていくために欠かせない資源です。父が公共料金の未納で一番最後に止められるのは水だといっていました。理由として、ガスや電気は無くても生きていけますが、水は生きていくために一番大切なものだかららしいです。しかし、この資源も無限にあるものではありません。

中学二年生の国語の「100年後の水を守る」という単元で地球の水の九七・五パーセントは海にあって人間が飲んだり使ったりする淡水は二・五パーセントしかない。しかもこれらの水も凍ったり、地下にありたりして人間が実際に使える淡水は地球全体の0・0一パーセントにすぎない。この限られた淡水も汚染が進んで使える水の量は減り続けていると書かれていました。

実際に沖縄でも過去に河川などで有害物質が検出されるなどの事例が報告されています。

そこで水を守るために大切なことについて調べました。

まず、水の持続可能な管理です。地球上の水資源は限られているため、管理を慎重にすることが大切だそうです。

次に水の品質に注意を払うこと。水のアクセスについてです。地球上

すべての人が清潔な水を使えるようにする必要があります。

現在、世界の約七億人が水不足の状況で生活していて不衛生な水しか得られないため、毎日四九〇〇人、年間一八〇万人の子どもがなくなっています。このような子どもたちを減らすために私たちは日頃の日常生活で使っている水の量をなるべく無駄使いせず節約して使わなければなりません。

しかし、一人が意識するだけではあまり変化は見られないと感じます。なので、SNSを活用してみたり、家族や友人の間で節水について話し合うことで、水不足でなくなる子どもを一人でも多く救うことができると考えています。

また、節水はCO₂の排出量を減らすことにもつながります。なぜなら日本では蛇口をひねるとあたりまえのようにきれいな水が出てきます。しかし、このように水を出すには大量の時間と電力が必要です。節水することで使う電力も減りCO₂の排出量を減らすことにもつながります。なので一人一人が節水を心がけ持続可能な社会を目指すことが水を守っていくために大事なことだと考えました。